

IASPEI2013 (ヨーテボリ・スウェーデン)

石川有三

安い航空券(往復約14万円)でKLMの成田10:35発、アムステルダム経由。

7月21(日)

アムステルダム空港まで10時間半!到着後すぐ入国審査へ行くが長蛇の列。乗継ぎ時間が1時間5分しかないのにこんな列に並んだら絶対乗り遅れる!何とかならないかと入国審査ゲートの近くへ行くと係員が新しく通路を開けて人を誘導していた。すぐその列に並んだので、なんとかヨーテボリ行きのフライトに間に合う。

ヨーテボリ空港に現地時間18時頃に降りて荷物を待つ間に台湾大学の呉逸民教授と知り合う。院生らしい男と二人連れだった。彼らは何か移動手段を検討していたので、私は5,6人が並んでいた市内行バスに並んで乗る。なんと現金では乗れずクレジットカード払いだった!一人一人カードを読取機に通して、紙を出力しサインするので、とても時間がかかった。その後、台湾の二人も列に並んでいたが定員オーバーで同じバスには乗車できなかった。車中で隣の座席の男に話しかけると、ルイスと言うペルー人で京大防災研の入倉教授のところに4年間留学していた男だった。私も大学院時代は京大防災研にいて、入倉教授をよく知っていると話すと驚いていた。彼は今スイスの研究所で働いているとか。

大会会場(スウェーデン展示・会議センター)近くのバスターミナルで下車して、ホテルへ入る(右)。

22(月)

IASPEI(国際地震学・地球内部物理学協会)総会に出席。ニュージーランドのRobin Adams氏が表彰されIASPEIメダルが授与された。IASPEI事務局長のPeter Suhadolcさんから今後の国際会議の予定が紹介されたが、ASC2014のフィリピンでの会議の予定が決まっていないのが憂慮されていた。日本地震学会のASC担当で建築研の横井俊明さんが今大会に参加出



来なくて、小生が ASC2014 の情報収集を依頼されていたので、気になった。

総会后、ASC 会長のオーストラリアの Gibson 氏が居たので、直接状況を尋ねたが、「PHIVOLCS の Jane Punonbayan と連絡しているが、9月にフィリピンへ行って決める」という回答だった。野外エクスカージョンの候補地としてマニラ断層があがっているそうだ。「とにかく LOC の担当と密にコンタクトして進めて欲しい」と頼む。

記念講演では、英国の地震研究の歴史が解説されたが、英国の地震研究、地震観測とともにミルン博士の活動が詳しく紹介され、その一部はビデオでも紹介され大変興味深かった。秋の日本地震学会でも同じビデオが放映されるらしい。会議室外で中国科学技術大学の陳曉非教授と久しぶりに会う。隣にいた西安交通大学の黄少鵬教授を紹介してくれた。入倉京大名誉教授を見つけたので、空港からのバスでルイスと一緒にいることを話す。

コーヒーブレイクのときに ISC 所長の Domitry Storchak 氏と会う。ISC-GEM カタログの内容で意見を言う。G-EVER の冊子と WS の宣伝ビラを渡す。インドの JR Kayal 氏(カルカッタの Jadavpur 大学)とも久しぶりに会った。四川省地震局の易桂喜教授と会う。成都にいつ来るのか?と尋ねられる。「実は、6月に成都での国際 WS に招待されたが、都合が付かなくて行けなかった。次の予定は今のところ無い。」と話す。

会場で気象研の干場さんに会う。ISC のビジネスミーティングに出席するため土曜日に来たそうだ。中国地震局地球物理研究所の名誉所長の陳運泰氏と会う。彼は先月の AOGS (ブリスベン) でこれまでの功績を認められ表彰された。

台湾地球科学研究所の陳國誠 (Chen, Kou-Cheng) 副教授と道で出会う。彼は私が ASC2012 ウランバートルで発表した台湾の地震の震源再決定に大変興味を持っている人で、G-EVER の冊子を渡す。

歓迎パーティに参加したが、食べ物が貧弱でクラッカーに何か少し載せたのとサンドイッチが少しあった程度。これほど貧弱なパーティは初めて!会費が無料というのはこういうことだったのかも。

23 (火)

ホテルでの朝食時に中国地震局の黄教授と会う。「地球物理研の呉忠良所長は昨日着いた。」と教えてくれる。彼



女は土曜日にヨーテボリへ来ていて、ISC のビジネスミーティングに出席したそうだ。

夕方、自分の口頭発表をする。ISC の Dr. D. Di Giacomo が「1952 年の地震は ISC-GEM カタログの付録にもでていないのか？」と質問してくる。「付録というのは何？」と尋ねると、ISC 所長の Domitry Storckhak が、文書は 2 つあって、「カタログともう一つのファイルだ。そのもう一つのファイルの方だ」と説明してくれた。「そちらの文書は見ていない」と回答した。

講演後、司会をしていた USGS の Dr. Engdahl が私のところへやってきて「Dr. Ishikawa, as I will check events which you pointed, please give me your presentation file.」と言われたので、後で送ると回答した。

その後、コーヒブレイクの時に、オーストラリアの Dr. Gibson がやってきて、「実は自分は、南半球の 1 / 4 球部分をカバーするように歴史地震カタログを作っている。君が論文を出したら是非、震源カタログを合わせたいのでくれないか」と言ってきた。もちろん、了承した。

18 - 20 時に開かれた IASPEI Commission on Seismological Observation and Interpretation (CoSOD) の委員会に出席した。ISC、NEIC、IRIS DMC から各組織の 2 年間の活動報告があったほか、10 個の Working and Task Group の報告があった。最後に、8 年間委員長を務めた ISC 所長の Dr. Dmitry Storckhak が退任し、新しく Dr. Thomas Meier が委員長に選出された。

ホテルへの帰り道で安藤雅孝さん（台湾）と石田瑞穂さん（JAMSTEC）に会う。二人は近くのレストランで食事をすませていた。私はまだ食べてなかったので何か買ってきて、安藤さんのホテルが近いので安藤さんのホテルのラウンジで話すことにする。小生は、近くの 7-11 へ行って、マフィンとジュース、缶ビールを買う。これらをレジへ持って行くと、ID カードをみせろ、と言う。初めは意味が分からなかったが、パスポートと日本の運転免許証を見せる。「OK」と言うので、いったい何歳に見えたのか？と聞きたくなったが、やめた。

ビールなどを持って安藤さんのホテルへ行く。ジュースは石田さんにあげ、ビール 1 缶を安藤さんにあげようと



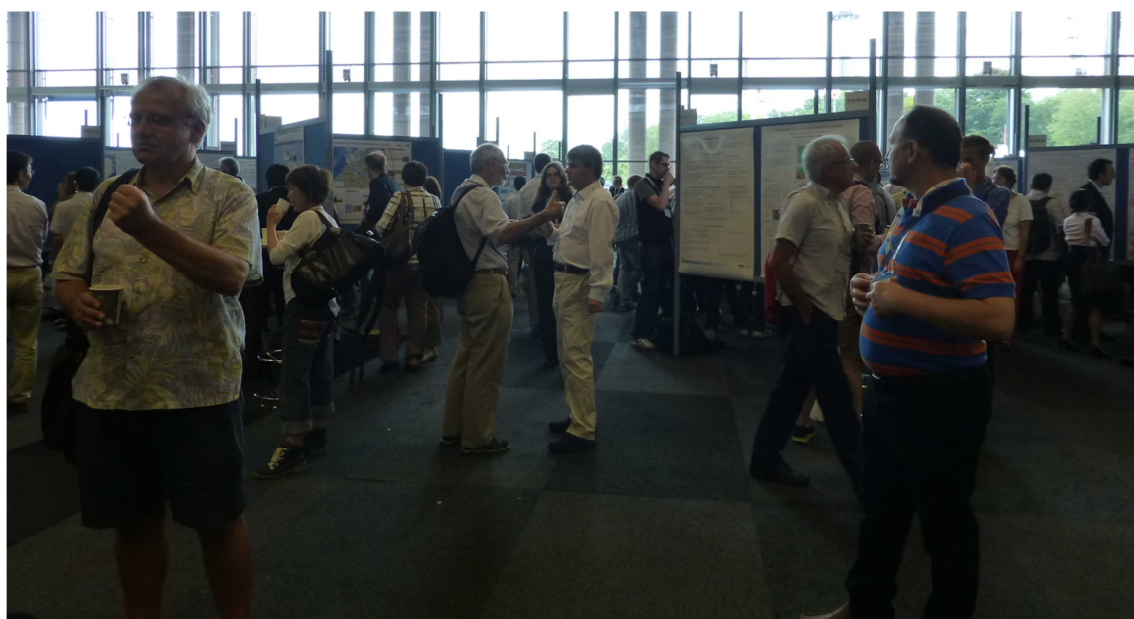
1 階にビールを買った地味な看板の 7-11 がある。

すると安藤さんは「今はビールは飲まないんだ、昔は毎日あびる程飲んでいたけどね！」と。いろいろ話をしたが、石田さんの泊まっている高層ホテルから日没が午後 10 時に見えたそうだ。私のホテルでも朝は 4 時前から明るくなってくる。最高気温も 24 度と快適！しかし、7-11 はいろんな国にある！4 月に行ったオーストラリアでもあった。現地の知人は日本の会社だと知らなかった。

24 (木)

中国地震局地球物理研の呉忠良所長と会場で会う。

S203 のセッションで「Advances in global hazard and risk analysis」の発表を聞く。ISC-GEM カタログによって地震活動の分布がいかに改善されたか、を示していた。ただ、古い地震については、 M_w の推定に苦勞していて、時代毎に下限を設定しているほか、 M_s 、 mB からの推定法を示していたが、文献からの収集も行っていた。ただ、 M_s からの推定にも依存しているので深い地震についてはカタログに含まれていない地震もある程度存在しているようである。



ポスター発表会場の様子

ポスター発表会場へ行く。ISC-GEM 関係の発表を見に行くと Dr. D. Di Giacomo が私を見つけて、「あなたの発表した中で示したいいくつかの地震のパラメーターを教えてくださいませんか？こちらでも調べて見たいから」というので、メールで送ると約束してきた。

夕食は、石田さんから皆でディナークルーズに行くので一緒にどうか？と誘われたので、前夜にネットで予約したのに出かけた。入倉夫妻+日本人 8 人 (JAMSTEC 石田、京大久家、大見、山田、東大井出、東北大矢部、北大吉本さんと小生)+Jim Mori さん+Tom Heaton (Caltech) 夫妻と大勢だった。



ディナークルーズの船上で記念写真

25 (金)

大会はもう1日あったが、帰路へ。

ホテルのフロントで空港バスのチケットを尋ねたが、どこにも売っていないで、乗車してカード支払いだと説明してくれる。しかし、実際にバスに乗り込むとPIN入力方式のクレジットカードしか受け付けてくれない！私は、アメックスのカードを見せて、「PIN入力方式クレジットカードは無い、どうしよう？」と運転手（女性）に言うと、とにかく乗れ！というので乗車して空港へ。空港へ到着。空港内にバスチケット売り場があって、そこで料金を支払うのかと思い、「料金はどこで支払えば良いのか？」と運転手に尋ねたら、「No! You are lucky!」と言って降りるように促すので、料金は支払わないまま下車！

ヨーテボリ空港では、搭乗ゲートが開くのが遅れ、アムステルダムへの出発が結局20分くらい遅れた。アムステルダムでは、成田へのフライトの乗継ぎに1時間15分しか無いので機内で、機内係員に尋ねたが、急ぐように、としか言わない。そのうち機内放送があり、乗継で注意が必要な便をいくつかあげるが、成田行は含まれてなかった。その後、何人かの乗客が手を上げて機内係員に説明を求めている。どうもその人達は、乗継便に間に合わないで、何か指示を受けていた。

飛行機はアムステルダムに到着したが、ターミナルに直接付けられなくて、一旦地上に降りてそれからバスでターミナルへ移動させられた。それでなくても時間が無いのに！仕方無いのでバスを降りてから走って入国審査のゲートへ駆けつける。今度は、どういうわけか全然人が並んでいなくて、すぐゲートを抜けられた。

今回の教訓は、帰路のようにローカル空港からハブ空港へ行って乗継ぐときは、もっと時間に余裕のあるフライトにすべきだと。

